



ルーテル学院だより

NO.139
2019.6.15

<http://www.luther.ac.jp/>

発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611 FAX:0422-33-6405

発行人 市川 一宏

授業探訪 「ボランティア市民活動論」



大曲 陸恵 助教

〈専門分野〉

子ども、グリーンフサポート、メンタルヘルス

〈主要担当科目〉

ボランティア・市民活動論、精神保健福祉援助実習指導

今回は「ボランティア市民活動論」についてご紹介します。



つから選んでもらいました。

のサロン「よってらっしゃい・にしまたか（*）に参加し、地域の方々の交流や、イベントのお手伝いをするというボランティアの2

も聴きに来てくださり、それぞれ、緊張しながらも内容の濃い発表を行うことができました。

*ルーテル学院大学が運営委員会に参加している、地域ケアネットにしまたか（三鷹にある7つの地域ケアネットワークの1つ）が主催している地域の方々のほっとスペース（サロン）。お茶をしたり、イベントをして誰もが楽しく過ごし、また、ちょっとした困りごと、相談もできます。

フィールドワークに行くのは緊張しそうですね。

講義でも、フィールドワーク（実践）に結びつくように、実際にボランティアに行くときの心構えや、マナーなどについて考える機会を持ちます。フィールドワーク2はそれぞれの学生の希望に沿い、グループに分かれて準備をしてからフィールドワークに行きますので、仲間がいるのは心強いですが、また、フィールドワークのイメージが付くように、授業では映像でイメージを得たり、ボランティアをしたことのある学生の体験談を共有したり、話し合いで自分たちの考えを深めたりします。そして、フィールドワークにつながるゲストスピーカーにお話をいただいたり、市川学長もゲストスピーカーでお話くださるなど、様々な視点でフィールドワークについて考える機会がありますので、自分の心の準備ができてくると思います。もちろん、個別に相談に来てくださってもかまいません。

Q 授業では何を学ぶことができますか。
A ボランティア・市民活動論は、講義と2つのフィールドワークを通して、ボランティア・市民活動の意義・理念、歴史、制度だけでなく、活動の現状や活動者の思い、地域のニーズとボランティア・市民活動の意義を体験的に学ぶことを目指しています。また、フィールドワークを含め、授業を通して、学生一人ひとりが自分の「ボランティア観」を見直し、深めることにもつながっていると思います。

フィールドワークについて詳しく教えてください。

A フィールドワークは2つの種類があります。

フィールドワーク1は、指定されたボランティアのうちの一つに参加することです。今年度は「食DE絆」という、ルーテルの学食で地域の方と一緒にランチを食べながら交流をするというボランティアと、地域の方々向け

のサロン「よってらっしゃい・にしまたか（*）に参加し、地域の方々の交流や、イベントのお手伝いをするというボランティアの2つから選んでもらいました。

フィールドワーク2は、児童福祉・障がい者福祉・高齢者福祉・地域福祉・病院ボランティア・国際ボランティアのうち、関心のある分野を1つ選び、その分野で実際にボランティア活動をしている人、または団体にインタビューに行くことです。分野によってはそのボランティアを経験する機会もあります。そして、インタビューをもとに、授業内で報告会を行い、それぞれのフィールドワークの体験や体験を通し得たこと、学んだことを共有します。

昨年度は、①三鷹市内で放課後の子どもたちの居場所活動をしている団体
②知的障がいのある人たちが働き、活動をしている施設のボランティアさん
③障がい者が生活・社会的な活動に主体的に参加しているように、障がい当事者が活動や支援を行っている団体
④フィールドワーク1で紹介した食DE絆と⑤よってらっしゃい・にしまたか、⑥病院で受付案内などしているボランティアさんにインタビューをさせていただき、それぞれ報告会で報告を行いました。報告会には、インタビューを受けてくださった団体の方や、三鷹市社会福祉協議会の職員さん、また、たまたまルーテルの後援会の方々



フィールドワークについて考える機会がありますので、自分の心の準備ができてくると思います。もちろん、個別に相談に来てくださってもかまいません。

創立110周年記念行事

ルーテル学院は、2019年に創立110年を迎えました。多くの方々に支えていただき、この長い歴史を築くことができました。私たちは、キリスト教教育を基盤とし、社会福祉、臨床心理の学びを展開し、地域社会に必要とされる人材を育ててまいりました。これからも社会に貢献する人材を輩出し、皆様とともに歩む、ルーテル学院でありたいと考えています。

110周年を記念するプログラムを展開してまいります。各イベントの開催詳細は随時ホームページ等でご案内いたします。

- 9月23日(月・祝) 一日神学校 主催 日本ルーテル神学校、ルーテル学院大学
- 9月28日(土) JSPS日本リトアニア二国間セミナー 主催 コミュニティ人材養成センター
- 11月10日(日) ルター研究所 秋の講演会 主催 ルター研究所
- 11月30日(土) 110周年記念大会・三鷹移転50周年ホームカミングデイ 主催 ルーテル学院大学、日本ルーテル神学校
- 12月14日(日) 臨床心理相談センター 公開シンポジウム 主催 臨床心理相談センター
- 2020年2月29日(土) 2019年度合同研究報告会 主催 包括的臨床コンサルテーション・センター

高校生のための体験講座

要予約 対象：高校生

7月24日(水)・25日(木) 2日間のプログラム 10:00～16:00
9月16日(月・祝) 10:00～16:00

<体験講座についてのご予約・お問い合わせ先>
電話 0422-32-2949 メール koho@luther.ac.jp

オープンキャンパスのご案内

予約不要 受付 12:30～

- 6月29日(土) 13:00～ 受験生の保護者・社会人・編入学対象
- 7月7日(日) 13:00～ AO入試課題文・小論文対策講座
- 8月4日(日) 13:00～ キャリア支援説明&卒業生メッセージ
- 8月24日(土) 13:00～ 実習教育、在学生スピーチ

<オープンキャンパスについてのお問い合わせ先>
TEL 0422-32-2949 メール koho@luther.ac.jp

一人ひとりの「想い」をカタチにする 選抜方式へ

2021年度入学者に対して行われる入試は、これまでの「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に代わる等、大きな改革が行われます。

ルーテル学院大学の入試も、受験生のこれまでやってきたこと、自身の良さをさらに活かせる入試へと変わります。

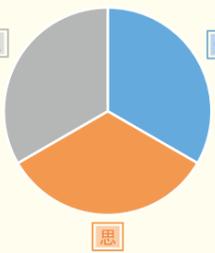
学力だけでなく、過去の経験から将来まで、一人ひとりの「想い」をアピールし、本学独自の「学びの計画書」(今まで取組んできたこと、そこで得たこと、大学入学後には何をどのように学びたいかをまとめる書類)により、総合的に評価します。

総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜のそれぞれの選抜方式で、学力の3要素のどこに重点を置くかを示していきます。

■学力の3要素の評価

新しい時代に必要な資質・能力の育成のために、学力の3要素を評価することが求められています。それぞれの選抜方式で、どの要素に重点を置いているかは、円グラフで示しています。

- 知** 知識・技能
生きて働く知識・技能の習得
- 思** 思考力・判断力・表現力
未知の状況にも対応できる、思考力・判断力・表現力等の育成
- 主** 主体的・協働して学ぶ態度
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養



行事予定 6月～8月

- 6月5日(水) 学生総会
- 6月9日(日) オープンキャンパス
- 6月29日(土) オープンキャンパス(保護者、社会人・編入学希望者対象) 保護者会
- 7月7日(日) オープンキャンパス 大学院オープンセミナー(臨床心理学専攻)
- 7月10日(水) 夏祭り
- 7月24日(水)・25日(木) 夏の高校生のための体験講座
- 7月29日(月) 通常授業終了
- 7月31日(水)～8月6日(火) 前期試験期間
- 8月4日(日) オープンキャンパス
- 8月24日(土) オープンキャンパス

ボランティア活動をアピール あこがれのルーテルに

子ども支援コース2年 高橋 直実
(私立玉川聖学院高等学校出身)

私は高校1年生のときからルーテル学院大学に入りたと思っていました。ルーテルを志望したきっかけは、ルーテルを卒業した先輩からルーテルについてたくさん話を聞いていたからです。少人数で教員と学生一人ひとりの距離が近いと聞いて、ここなら私のやりたいことを見つければ、落ち着いた環境で学ぶことができると思いました。

しかし、私は中高と学校に馴染めない時期があったため大学に通うことを諦めていました。高校3年

生になったときに、これからどうしたらいいのか、何をしたらいいのかを考えなおしたとき、不安でいっぱいでしたが、先生や先輩が背中を押してくれたため、もう一度ルーテルを目指してみようと思いました。

そこから私は入試について調べ、AO入試という自分のことをアピールするレポートや面接で受験ができる入試があることを知りました。

自分のことをアピールするのはとても難しかったですが、募金活動などのボランティア活動をしていたのでそのことについて書くことができました。私にとってボランティア活動は、いろいろな世界を知るためのよい経験になりました。

無事AO入試に合格し、ルーテルに入学しました。将来は児童養護

施設で働きたいという思いがあり、子ども支援コースを選択しました。授業では自分の学びたいと思っていたことを学べているので楽しいと感じています。授業ではグループワークも多く、自分以外の人たちの意見等を通じて異なる意見があることを学んでいます。

ルーテルでは国家資格などの取得を目指すこともできます。諦めそうになることもありますが、資格取得に向けたサポートもあり、相談することができています。

皆さんもぜひ諦めずにチャレンジしてみてください。

AO入試 合格体験記

教会で見た牧師先生の「コラム」に感銘を受けて

キリスト教人間学コース2年 長谷川 諒
(私立桜丘高等学校出身(三重県))

私はAO入試でこの大学を受験しました。受験するまでにさまざまなドラマがありました。高校3年生のときに他にも志望校があり、志望校について親に相談することもありました。

志望校などについて悩んでいたときに、教会に置いてあった新聞のコラムを偶然読み、その内容に感銘を受けました。その牧師先生について調べてみると、ルーテル教会の牧師先生だということがわかりました。

そのコラムを書いた牧師先生に会いたいと思い、牧師先生を訪ねることにしました。「僕もこの人みたいになりたい！」そう思った私は、この教会と同じ名前のルーテル学院大学へ進学したいと思うようになり、親に相談し、話し合いました。

最初は反対されましたが、最終的には納得してくれて、AO入試への対策を始めました。AO入試の内容は面接と課題の2つでした。具体的な対策として、在学していた高校の教員に、面接の練習や課題の添削指導をしていただきました。

AO入試を終えた数ヶ月後、気がつくところのキャンパスにいました。他大学に通う友人や知人の話を聞いて、周りの楽しそうな雰囲気と自分

の学生生活のギャップに後悔したこともありました。しかし、自分の夢をあらためて見つめ直した時、ここは勉強には最適な場所でした。

今年度の後期には、本学と姉妹校関係にあるカリフォルニア州のコンコーディア大学に隣接する語学学校への留学を控えているため、現在は主に聖書と英語を学んでいます。教会で読んだコラムで偶然ルーテル学院大学、そしてルーテル教会に出会いましたが、今ではここが自分と与えられた場所だと感じています。



AO入試スケジュール

(AO入試説明 期間) 3月30日(土)～9月28日(土)

AO入試の説明は、オープンキャンパス、体験講座、外部進学相談会にて希望者を対象に行います。AO入試の説明、エントリー方法、課題などを説明しAO入試ガイドを配布しますので、AO入試説明は必ず受験生本人が受けてください。

	I 期	II 期
エントリー期間	4/29(月)～8/26(月)	4/29(月)～10/15(火)
課題提出期間	8/19(月)～9/2(月)	10/1(火)～10/21(月)
面談日	9/7(土)	10/26(土)
出願許可発送	9/12(木)	10/31(木)
出願期間	9/13(金)～9/25(水)	11/1(金)～11/15(金)
合格発表	10/3(木) 14時	11/22(金) 14時

(AO入試に関するお問い合わせ・ご相談) 入試事務局 0422-31-4611 admission@luther.ac.jp

2018年度 社会福祉士 精神保健福祉士 合格率

第31回社会福祉士国家試験の現役合格率が発表され、本学は**68.2%**(全国平均合格率29.9%)でした。

第21回精神保健福祉士国家試験の現役合格率は**100%**(全国平均合格率62.7%)と、受験者全員合格でした。本学は精神保健福祉士国家試験に第1回から合格者を出している数少ない大学です。

キリスト教月間 2019 報告

チャブレン 河田 優

ルーテル学院は、毎年4月をキリスト教月間とし、特に新入生たちに向けてキリスト教や聖書、礼拝を紹介してきました。本年度も4月9日から5月10日まで、キャンパスキリスト教センターを中心に企画された特別礼拝や様々な催しが行われました。

礼拝では、社会福祉、臨床心理、キリスト教領域の教員がメッセージを行い、ミッションスクールである本学で学ぶ意味を紹介しました。また学外のゲストから話を聞いたり、聖歌隊など音楽サークルによる礼拝も行われました。

恒例のクヌーテン講演会では卒業生である吉村誠司氏(ヒューマンシールド神戸代表)を招き、「ルーテルから世界の被災地へ」と題しての講演をいただき、出かけるこ



牧師 ROCKS コンサート

とよって私たちが隣人となって行く大切さを学びました。本学が主催する近隣教会やキリスト教団体との交流会も10

名を超える牧師や司祭などの参加があり、「キリスト教概論1」の授業ではそれぞれの教会の特徴を説明し、キリスト教が誰に対しても身近なものであることを紹介していただきました。

どのプログラムにも多くの学生が参加し、キリスト教を基盤とする本学の教育理念について学ぶ祝された時となりました。



ノルウェー研修報告

教授 原島 博

2019年3月10日～16日にわたり、学部学生7名、本学大学院卒業生1名、施設職員1名、引率教員1名の計10名でノルウェーの首都オスロ市内で研修を実施しました。交流協定校のV I D 大学(看護、福祉、キリスト教コースのあるルーテル系私立大学)にてノルウェーの社会福祉について講義を受け、保育園(ルーテル系)、公立ハイスクール(東部オスロ移民・難民定住地区)、Eirik Kage(路上生活者のサポートおよび雇用創出NPO)、Kampun Onskog(高齢者住宅)、Fosshem(障害者への就労支援、授産所を運営するNPO)などの施設を視察しました。



ホームレス支援カフェ Eirik

を通して、ノルウェーの歴史や文化に触れることができました。参加者からは、市民が福祉サービスを利用することを権利として考えていること、男女差がなく社会参画の機会が保障されていること、NPOの役割も重要視されソーシャルワーカーの職域の広がりがあること、いじめの対応システムが興味深かったなど、といった感想を聞くことができました。



オスロ市内ハイスクール訪問

を視察しました。また、ビーゲラン彫刻公園、オスロ市役所、ムンク美術館、バイキング博物館などの見学を

このようなことを感じることができた背景には、社会問題を隠さずに取り上げて解決しようとする専門家や実践家の姿勢や、高齢者や障害者であっても一人ひとりが尊重されて生きることが大切な規範としているノルウェー人の国民性から直感的に学んだからだといえます。